

山河

一般社団法人
満蒙開拓平和記念館
代表理事 寺沢秀文
〒395-0303
長野県下伊那郡
阿智村駒場 711-10
TEL 0265-43-5580

ピースサポーターニュース 2025 年秋号 第 74 号

お知らせ

【土曜セッション】

第6回 9月13日(土) 西岡 秀子さん
第7回 10月11日(土) 公開訪中報告会
第8回 11月 8日(土) 内容未定
【演劇公演事前連続講座①②】
9月20日(土) 斎藤俊江さん
10月25日(土) 田中雅孝さん

戦後 80 年目の夏

この夏に向けて展示ガイドに挑戦してきた若者たちの活躍からご紹介しましょう。

ガイドを続けて8年目になる松川高校ボランティア部。実はこの春、3年生を見送った時点で残り二人という危機的状況でした。当初から顧問として関わってくださっている菅沼節子先生が飯田市教育委員会主催の若者ピースゼミという学習会にも携わっている関係で、今年度はゼミに参加している他高校、小中学生にも声をかけたところ「やってみたい」というありがたい声！松高ボラ部も菅沼先生の巧みな勧誘で3人増員され、計8人、8月11日の鎮魂の夕べを目指してほぼゼロからのガイド練習が始まりました。



引揚げコーナーを担当した改汰くん

注目は小学6年生の改汰君と中学2年生の美乃さん姉弟。小中学生のガイド役は初めてでした。美乃さんは考えながら言葉を紡ぐことができるとても優秀な女の子。でも声が小さくて伝わってきません。改汰くんは「はい！」という返事はとても元気だけど作文は苦手。ご両親も協力してくださり、二人は自宅でも予習復習を重ねてメキメキと上手になっていきました。実は二人の曾祖父は元開拓団でした。一家は終戦前に日本に帰ってきており、引揚げの苦労はなく、満州の話はほとんどしないとのこと。彼らにとって他人事ではなかったこの歴史に向き合った夏になりました。

鎮魂の夕べに向けてラストスパートという7月中旬、ビッグニュースが飛び込んできました。8月7日、阿部守一長野県知事が来館決定！これは是非とも若い世代の活躍を見てもらおうということで急遽、知事の滞在時間に合わせた短縮バージョンの練習にギアチェンジ。当日は意見交換会で知事からの質問にも堂々と自分たちの考えを述べ、周りの大人たちが皆感心していました。

迎えた8月11日。一般来館者やボランティアさんたちを相手に今までの練習の成果が披露されました。何度も書きかえ手を加えた原稿を片手に語る姿、その目を見張る成長ぶりに今年も感心させられました。報道関係も大勢取材に来てくださり、松高ボラ部の先輩たちも何人も激励に来てくれました。

鎮魂の夕べでは、語り部 北村栄美さんの体験を紙芝居にした「命の選択」が上演されました。「改めて、今生きていることが不思議でなりません。今日死ぬか、今晚死ぬか、自分で死ぬか、殺されるのか…」そんな状況であったと前段の慰霊祭で話をしてくれた栄美さん。紙芝居には敗戦後の避難生活の中、乏しい食糧を二人の妹の内の一人だけに与える役を担わされたことや、それを命じた母親の苦渋の決断などが描かれています。製作・語りを担当したのは若林まり子さん。栄美さんの体験談に感銘を受け、この話を伝えたいと絵も全て自分で描かれました。若林さんの真に迫る語りにご友人のピアノ演奏も手伝って、会場は引き込まれるように 80 年前へ。妹を失い、弟を残してこなければならなかった取返しのつかない苦い悔恨を引きずりながら、この歴史を語り伝えようとする栄美さんの思いがこのような形で受け継がれていくことに感銘を受けました。



戦後80年。体験者が少なくなる中、この歴史を伝えようと多くの人たちが努力され、この記念館にも関わってくださっています。来年も、またその次の年も、巡りくる夏を共に迎えましょう。